

令和6年度 学校評価 自己評価結果等

本年度の 重点目標	①生徒の自己有用感・自己肯定感を高める教育活動を推進する。 ②指導と評価の一体化を一層推進し、指導の質を高める。 ③質の高い教育を維持しつつ、教職員の多忙化解消に向けて取組を進める。		
分掌名	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	・P T A事業のあり方を再確認し、よりよいP T A活動を目指す。 ・自主的な防災者としての意識を涵養する。	・保護者への情報提供、交流という視点で、役員会等でP T A事業について検討する。 ・現実的な条件を加えて防災訓練を行う。	・学校行事等でP T Aの積極的活動があった。役員会では来年度事業の精選が話し合われた。 ・「防災新聞」の活用等、防災意識の向上を図った。来年度はより現実的な防災訓練を計画していきたい。
教務部	・基礎的基本的な知識の定着を前提とする「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ・総合的な探究の時間を持続可能なものにしていく。	・生徒一人一人の特性を理解しながら、計画的に学習し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。 ・「総合的な探究の時間」の目標に照らして、各教科との関連を明確にし、連携を深める。	・生徒による授業評価アンケートなどを通し、生徒の実態などを把握することはできたが、その結果を生かしてどのような手立てが必要かといったことを継続して教科と連携して考えていく必要がある。 ・「総合的な探究の時間」検討委員会を通して3年間を見据えた計画の全容ができつつある。この骨子をもとに運営の仕方などを継続して検討し、よりよいものにしていきたい。
保健部	・校舎やトイレの改修にともない、新しい清掃の方法を指導するとともに、清掃道具等の見直しを行う。 ・教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送り、悩みなどを気軽に相談できる雰囲気をつくる。	・清掃状況を美化委員会を中心に清掃状況を点検し、環境美化への意識を高める。 ・教育相談委員会を中心として、学年とS C等との連携を密にし、個別の支援が必要な生徒には迅速に支援チームを立ち上げる体制を常時整えておく。 ・教育相談室を生徒が気軽に来室できるように整備する。	・美化委員を中心に清掃道具の整備ができた。通常清掃で、きれいな状態が保てるよう、環境美化への意識を高めたい。 ・教室の椅子の壊れた箇所に養生テープを貼り、ケガの予防に努めた。 ・2学期から毎週教育相談部会を開き、遠隔授業と対象生徒について審議し、今後の対応について話し合いができた。 ・現職研修の講話をS Cに依頼し、生徒への支援について理解をより深めることができた。
生徒指導 部	・交通安全への意識の向上を目指し生徒が危機意識を持ち、安全に登校できる環境を作る。 ・いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員間で連携して支援できるようにする。 ・身だしなみを整えさせる。	・交通立ち番の見直しを図る、交通安全教室の充実を進める。 ・いじめ・不登校対策委員会の充実、教育相談委員会との連携を進め、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなどの対応を迅速かつきめ細かにできる体制を常時整えておく。 ・身だしなみ強化週間の設定、出会い頭指導の全職員の協力などを通じて生徒に声掛けをしていく。	・教員による朝の交通立ち番の回数や場所を減らしたり、場所の変更をしたが、昨年度と大きな差はなかった。 ・いじめに該当するか判断に困る事案でもいじめ・不登校対策委員会を開催し、多くの教員で情報共有ができた。 ・禁止する指導から、自ら気付き行動できるような自己指導能力の育成を目指し、声掛け等をした。
進路指導部	・系統的、計画的なキャリア教育を推進するとともに、生徒の進路希望の実現を目指す。	・系統的、計画的なキャリア教育を総合的な探究の時間を通じて実践するとともに、学年と連携をとり、生徒の進路実現に向けオリエンテーション、学年集会や進路だよりを利用して進路意識を高める。	・総合的な探究の時間、及びL Tを通じて、キャリア教育を系統的に、計画的に進めることができた。今後はさらに学年間の情報共通を密にし、前の学年の良い実践例を次の学年にも生かせるような工夫をしたい。
特別活動部	・人間関係形成能力と社会形成能力の育成を目指し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・社会の変化に、臨機応変に対応し、柔軟な発想で対応できるようにする。	・部活動や行事の活性化により、リーダーを育成する。 ・花いっぱい、地域美化などボランティア活動を推進し、活動参加を促す。 ・知立東のつどいなどの行事を通して、ICT活用を推進する。	・生徒会役員が自ら考え行動し、学校行事などを運営しようとする意欲が見えてきた。進学フェアやオープンスクールなどでの生徒会プレゼンなども行い、ICT活用も進んできた。今後防災セミナーなどでもプレゼンをすることでさらなる推進を見込むことができる。
図書研修部	・図書館・情報機器利用の推進のため教科や学年との連携を進め、豊かな人間形成を目指す。 ・現職研修を活性化して職員間の相互理解を促進し、教員の専門性を高め、教育技術の向上を図る。	・図書館企画を通して、本への興味を喚起し、来館者数や貸し出し冊数の増加を目指す。 ・公開授業週間で職員が研究授業や授業参観を積極的に行えるようにする。 ・生徒用タブレットやBYODの活用により、さらなる教育のDX化を推進する。	・図書館企画（スコラセッション等）を通して、本や異文化への興味を喚起できた。 ・来館者数や貸し出し冊数は前年度並み。 ・公開授業週間では多くの職員が研究授業や授業参観を通して、自己研鑽の機会となった。 ・使用の集中に伴う遅延は、時間をずらすなどの工夫が必要である。
1 学年	・学校における基本的生活習慣の確立を図る。 ・高等学校の学習を始めるために必要な基礎・基本を身に付けさせる。	・挨拶をしっかりとさせる。 ・5分前集合を基本とし、時間を守らせる。 ・提出物の期限を守らせ、出し切らせる指導をする。	・高校生としての基本的生活習慣を身につけ、周りへの配慮を忘れずに行動することができた。 ・定期考査や課題実力考査を目標に、先を見据えた学習計画を立て、計画的に進めることができた。
2 学年	・学習に対する高い意識をもたせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・学校の中核を担う学年であるという意識をもって行動させる。	・具体的な進路目標をもたせるためにきめ細かく指導する。 ・日々の学習に対するアドバイスをする。 ・学校行事や部活動に積極的に参加させる。	・進路決定に向けて、志望大学や学部学科について調べ、オープンキャンパスに積極的に参加させることができた。 ・各教科担当が課題や勉強方法についてアドバイスを与えることができた。 ・部活動では下級生をまとめ、中心となって活躍できるようになってきた。修学旅行では自分の役割や周りとの関わり方などを学ぶことができた。
3 学年	・進路目標実現に向けて、高い目標をもち最後まで努力を続けさせる。 ・学校の中心としてどう動くべきかを常に考えさせる。	・個別面談等で、モチベーションを保つための声掛けや、アドバイスをこまめに行う。 ・学年集会の講話や日々のS Tなどの場面で、心構えや行動を考えさせる。	・自己の進路実現のために日々努力することができた。 ・進路実現のために自分で調べ、担任や保護者と何度も話し合いをすることができた。 ・学校行事や部活動などで最高学年としての振る舞いができた。
総合評価	①評価B 生徒会活動、学校行事、部活動を通して、生徒が主体的に活動することができる体制づくりを進めてきた。また、総合的な探究の時間や修学旅行等、機会を捉えて体験的な要素を組み込んだ。生徒によるアンケート結果では、「学校生活は充実している」と回答した生徒が1年生89％、2年生95％、3年生95％で、ほとんどの生徒が充実した学校生活を過ごしている。しかし、「自己有用感、自己肯定感が高まった」と回答した生徒は、全学年で66.3％にとどまっており、充実感を自己有用感や自己肯定感まで高め切れていない生徒が存在している。 ②評価B 4月に「総合的な探究の時間検討委員会」を立ち上げ、原則毎週会議を開催して1年間を通じて検討した結果、次年度より3年間を見通した「クリティカル・シンキング」の育成を主眼とした計画を作成することができた。 ③評価B 教員用端末の更新に伴い、I T C機器を活用した授業に取り組む教員が増加した。各分掌において、QRコードを用いたアンケートを実施するなどICTを活用し、業務の効率化に取り組んできた。きずなネットの送信権限を全主任に委譲することで、保護者連絡の迅速化・効率化を実現した。令和6年9月から自動採点システムを導入・活用することにより、定期考査等の採点を迅速かつ正確に行うことができるようになり、成績処理の改善が図られた。		